

吉中龍之進先生叙勲祝賀会の趣旨と先生のご功績

拝啓 晩秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成26年度の秋の叙勲におきまして、埼玉大学名誉教授、吉中龍之進先生が瑞宝中綬章を叙勲されました。このことは吉中龍之進先生の警咳に接することのできました私共一同の喜びとするところであります。とりわけ、先生が長らく教員としてお勤めでありました埼玉大学建設系の教員ならびに卒業生、また先生がその発展にご尽力され続けております岩盤工学・地盤工学・応用地質学分野にとりましては大変嬉しくまた誇らしいことでもあります。このたびの叙勲を記念して「吉中龍之進先生の叙勲を祝う会」を発足し、先生と親しく接せられた皆様方に広く呼びかけ、先生の長年のご尽力に感謝の意を表したく、下記の通り「吉中龍之進先生叙勲祝賀会」を計画いたしました。

つきましては、この趣旨にご賛同いただき、祝賀会にご参加賜りますようご案内申し上げます。

敬具

平成26年11月吉日

記

「吉中龍之進先生叙勲祝賀会」

日時 平成26年12月13日(土) 開宴 午後0時15分～(受付12:00～)

場所 パレスホテル大宮 ローブルーム <http://www.palace-omiya.co.jp/>

会費 ¥10,000-

振込先 次により、12月5日(金)までに、お振込みいただきたく、お願い申し上げます。

1) 郵便局から振り込まれる場合

【振込口座番号】 10370-23042621番

【振込口座名称】 吉中龍之進先生の叙勲を祝う会

2) 他金融機関から振り込まれる場合

【店名】 ○三八(読み ゼロサンハチ)、【店番】 038

【預金種目】 普通預金、【口座番号】 2304262

参加申込 準備の都合上、12月5日(金)までに事務局宛にメールを頂戴できれば幸いです。

以上

「吉中龍之進先生の叙勲を祝う会」

発起人

山口宏樹(埼玉大学長)、田中規夫(レジリエント社会研究センター長)、奥井義昭(副工学部長)、

鈴木輝一(建設工学科長)、川上英二(建設工学科)、睦好宏史(建設工学科)、

桑野二郎(建設工学科)、久保田尚(建設工学科)、山辺 正(建設工学科)

軽部信雄(第3期卒業生)、川島由生雄(第7期卒業生)、大友正晴(建設系同窓会副会長)、

南沢郁一郎(建設系同窓会長)、中谷吉博(第17期卒業生)、木田博之(第26期卒業生)

事務局

長田昌彦、小口千明、畠山 健

連絡先

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学工学部建設工学科内

「吉中龍之進先生の叙勲を祝う会」事務局 長田昌彦

TEL 048-858-3547 FAX 048-855-1378 Email osada@mail.saitama-u.ac.jp

吉中先生のご功績につきまして、あらためまして簡単にご紹介致します。

吉中先生は、昭和35年東京教育大学理学部地質学鉱物学科を御卒業の後、直ちに建設省に入省され昭和38年まで九州地方建設局、その後、昭和43年まで建設省土木研究所の構造橋梁部基礎研究室に勤務され、その間、本州四国連絡橋など長大橋梁基礎に関わる岩盤の強度や安定性に関する多くの研究を進展させました。昭和43年には発足間もない埼玉大学理工学部建設基礎工学科に助教授として着任されました。昭和46年には東京大学より工学博士の学位を授与され、昭和54年からは埼玉大学工学部建設基礎工学科岩盤工学研究室教授の任に就かれました。埼玉大学においては、約33年間にわたり学部の岩盤力学、大学院の岩盤工学特論、地質工学特論などの講義を担当されました。このような学生の教育ならびに研究を通し、一貫して岩盤力学・地質工学の発展に貢献されるとともに人材の育成に尽力され、多大の功績を残されました。

先生のご研究は、地盤反力係数の算定式の提案に始まり、軟岩の強度・変形特性の評価、不連続性岩盤の強度・変形特性に関する実験的・数値解析的研究、岩盤斜面の安定性評価手法の開発など枚挙に暇がありません。地盤反力係数の算定にあたっては、寸法効果に着目し平板載荷試験結果を巧みに利用した計算式を提案になり、今日まで設計基準として利用されている事は広く知られる所です。また軟岩の強度変形特性に関する研究は、本州四国連絡橋明石ルート橋梁基礎の力学特性を解明するとともに、軟岩一般の力学特性を理解する上で大きな貢献をもたらしました。不連続性岩盤の力学特性解明にあたっては、亀裂を含む大型供試体に対して三主応力を制御する試験装置を用いて多くの重要な知見を提示されました。岩盤斜面の安定性を評価する上では、不連続体としての解析手法を導入するのみならず連続体としての解析手法も駆使して、長期にわたる膨大な実測結果との比較検討を実施し解析手法の妥当性を明らかにされました。これらの研究成果は多数の論文および著書として纏められており、昭和50年には応用地質学会から論文奨励賞、昭和54年には土質工学会（現、地盤工学会）から論文賞、平成元年には功労章を受賞されました。今なお先生の研究に対する意欲は変わることなく、最近では岩盤動力学の重要性についてご研究中です。

このような研究とは別に学内においては、平成4年から8年間、工学部附属地盤水理実験施設長を歴任され、さらに平成7年から2年間、埼玉大学附属図書館長および評議員の任に就かれ教育研究環境の整備に御尽力されました。また、平成13年度から発足した地圏科学研究センターの設立に多大なる指導力を発揮されました。

学外にあっては、土木学会岩盤力学委員会委員および小委員会委員長、応用地質学会理事および評議員、土質工学会岩の力学委員会委員長、岩の力学連合会、地盤工学会副会長など岩盤関連の多くの学会において要職を務められ、さらに国際岩の力学学会（ISRM）においては日本の岩盤力学を広く海外に紹介するとともに、試験方法の国際基準化に向けた提案に大きく寄与されました。また、国の機関においても多数の委員会に指導的な立場で参加されました。特に明石海峡大橋・瀬戸大橋をはじめとする本州四国連絡橋や各地の原子力発電所のような大型基礎地盤に関する安全性評価などの実際問題において専門委員として多大の貢献をされたほか、文部省学術審議会専門委員としても活躍されました。